

北里大学医療衛生学部 半期の主なニュースと魅力を満載!!

旧A1号館フィナーレ・2号館リニューアル



旧A1号館外観



旧A1号館講義室



旧A1号館正面玄関



プロジェクトA終了に近づき

プロジェクトA委員長
基礎医学部門病態生化学 教授 市川 尊文

老朽化が進む本学部校舎の建替えの検討が始められたのは、今から10年以上前のことでした。当時学部長であった石原和彦先生（現名誉教授）の下、各学科・専攻・部門から選任された委員で構成される「プロジェクトA」と銘打った会議体が立ち上げられたのが始まりです。待望の新校舎は昨年7月に完成し、厳重なCOVID-19感染防止対策を施す中、新A1号館として定礎式・竣工式・内覧会が開催されたのは記憶に新しいことと思います。また、以前A3号館と呼ばれていた建物は、大規模な改修修繕工事が完了し、今年度より新A2号館として再出発しております。

このような中、役割を終えた旧A1号館は、現在解体工事が進められています。ここで旧A1号館の往年の姿について記念誌等の資料を紐解いてみましょう。「北里大学衛生学部創立15周年記念誌」によると、昭和46年（1971年）9月、相模原キャンパスに旧A1号館の着工開始記録があります。翌年4月にはこの校舎で授業が開始されています。35年の軌跡と回顧―北里大学衛生学部閉校記念―に当時の相模原キャンパスについて次のようにあります。当時の相模原校地は小田急線相模大野駅からバスで約15分位の所にあり、道路は狭く凸凹の砂利道で……大学に行くバスはもうもうと土煙をあげて走っていた……麻溝台を過ぎると人家も余り見当たらない……バスを校舎前で降りると広々とした野原の彼方に衛生学部の四角な建物が見

えて、その方向に一直線に道路が一本、……何も断ちきる物がなく、正に広野に在る思いがしたものです。旧A1号館は、昭和、平成、令和にわたり半世紀もの間、相模原の移り変わる様子を見てきたことになりました。

初代委員長が現学部長の北里英郎教授、その後福田倫也教授に引き継がれ、私が3代目として櫓を受けたプロジェクトAは、旧A1号館の解体をもって終了を迎えます。新校舎建設と旧A3号館リニューアル完了まで設計会社や建設会社と何度も協議を重ねましたが、常に学部が主体となり主導して進めてきた取り組み方は、これまでにない画期的なもので今後の校舎建替えに一石を投じると考えます。教職員が強い連帯感を有する本学部ならではの特徴が大いに発揮されたプロジェクトと誇らしく思います。旧A1号館の解体は哀惜の念に堪えませんが、ここで過ごした思い出を皆で語り合い、その伝統を新校舎に引き継ぎ、これからも時代の一步先を歩み続ける本学部に相応しい学舎となるよう新たな50年・100年に向けて活用していきたいものです。



並び立つ新たな学舎



リニューアルしたA2号館
紹介は次頁より

A2 1 Floor



放射線物理学実験室

放射性同位元素（密封）を使用して放射線計測や放射線防護の実習や研究を行います。放射性同位元素は法律と学内規定に基づいて厳重に管理されています。

RI実験室



放射性同位元素（非密封・密封）を取り扱う実験台や計測機器があり、放射線計測学や核医学に関する実習や研究で使用します。実際に病院で稼働している体外計測装置（ガンマカメラ）も配備されています。

写真実験室

ワークステーションPCを配備し、医療画像のデジタル化に対応した実習を行います。放射線機器、画像サーバーと接続されたPCで、医療現場と同様な作業が可能となっています。



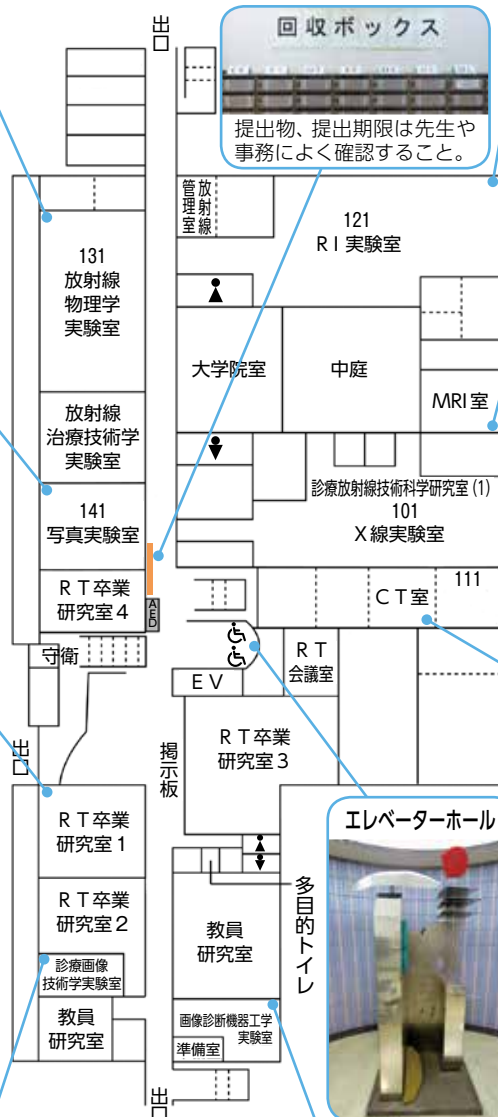
MRI室

MRI装置は、非常に強力な磁石と電磁波を利用して人体の断面像を得る装置です。オープン型MRI装置が導入されており、学生実習や研究活動で使用します。金属持ち込み禁止エリアなので、厳重な管理区域となります。



RT卒業研究室

改修工事で、事務室がRT卒業研究室になりました。卒業研究の解析やディスカッション、論文作成を行うだけでなく、国家試験勉強にも励んでいます。



CT室

CT装置は、放射線を利用して人体の断面像を得る装置です。医療現場で主流となっている多列検出器型CT装置が導入されており、実践的な実習や研究を行っています。



エレベーターホール



診療画像技術学実験室

2台の超音波装置を配置した実験室です。超音波検査の基礎知識や技術を実践的に学びます。



画像診断機器工学実験室

放射線診断で使用されている機器に関する実習を行います。放射線技師として機器や装置を適切に扱うことができるよう、機器工学の知識や技術を習得します。



A2 2 Floor

スポーツ・運動器理学療法研究室



スポーツ・運動器理学療法研究室は2階東側に位置しています。ここではスポーツ障害・外傷や整形外科疾患の発症メカニズム、治療法そして予防などの研究を行います。

心肺機能検査実習室

呼吸・循環系の理学療法実習を行います。体力測定が可能な心肺運動負荷装置や心電図計、呼吸機能検査装置などを備えており、内部障害理学療法に必要な実習を行うことができます。



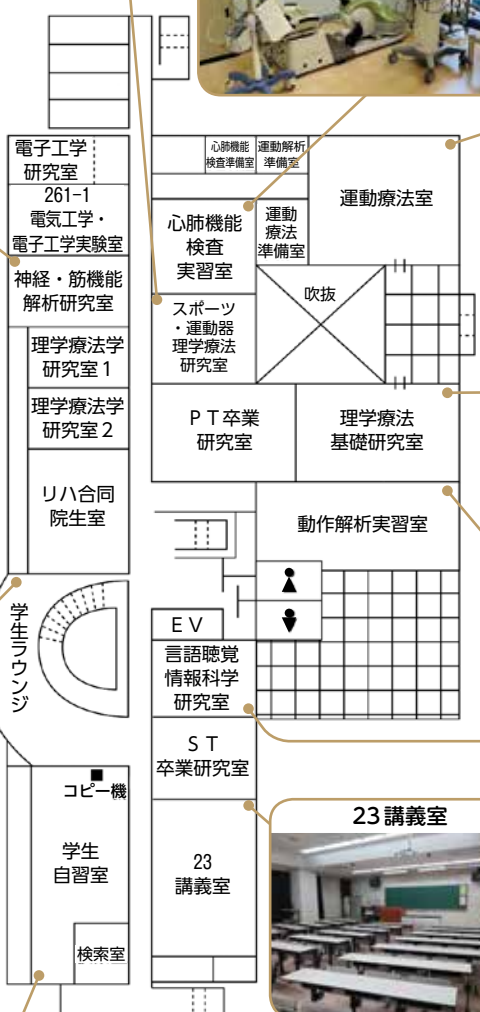
運動療法室

3面ガラス張り、明るく開放感あふれる実習室です。実技を学ぶための治療台がずらりと並び、「運動療法」以外にも、評価から介入までさまざまな授業が行われます。また、桜の時期にはお花見を楽しむことができます。



神経・筋機能解析研究室

神経・筋機能解析研究室では、磁気刺激装置、脳波計、筋電計などさまざまな測定機器があります。運動学習や認知学習時の中枢神経系の働きに関する研究を中心にを行っています。



理学療法基礎研究室

理学療法基礎研究室では、廃用性筋萎縮や筋損傷への理学療法介入に関する研究をすすめています。組織標本の作製等が可能となる環境を整えました。



学生ラウンジ

A1号館を見渡せる開放的なラウンジ。今はソーシャルディスタンス。



動作解析実習室

動作解析実習室は2階階段を上がって右隣にある部屋です。ここには、3次元動作解析装置、筋力測定装置など運動機能を評価する機器が設置してあります。主に2年生の生体運動分析学実習で使用されます。



23 講義室



学生自習室 集中して勉強ができます。



医学部棟への渡り廊下



言語聴覚情報科学研究室

大学院生が利用する研究室で、採光性が高く開放的な空間となっています。また卒研室や講義室が近くなったため、これまで以上に大学院生と学部生の交流が深まることが期待されます。



A2 3 Floor

視能矯正学実習室

暗室として、見える範囲を調べる視野検査や、網膜電位を記録する電気生理・光覚検査に関する実習に使用します。実体・光学顕微鏡のある部屋では眼の組織観察を行います。



言語聴覚実習室

言語、聴覚、発声・発語、認知などコミュニケーションに関わる機能とその障害に関する評価・訓練・指導の実際を、講義や実習を通して学びます。実習室内には防音室を5部屋備えています。



視能検査学実習室

明室として、お馴染みの視力検査や、近視・遠視・乱視を測定する屈折検査に関する実習に使用します。視覚と前庭器官を評価する日本に数台しかない装置もあります。



聴覚実験室

小児用および成人用の各種聴覚検査機器や、脳波で聞こえを測定する機器（ABRやSVR）、補聴器利得調整器などを用いて、聞こえに関する検査実習を行います。実験室内には防音室も完備しています。



視覚生理学実習室

高性能の調光器が備わった二部屋に分かれます。ロービジョン（視覚リハビリテーション）のケアを修得する実習と、前眼部・後眼部検査に関する実習に使用します。



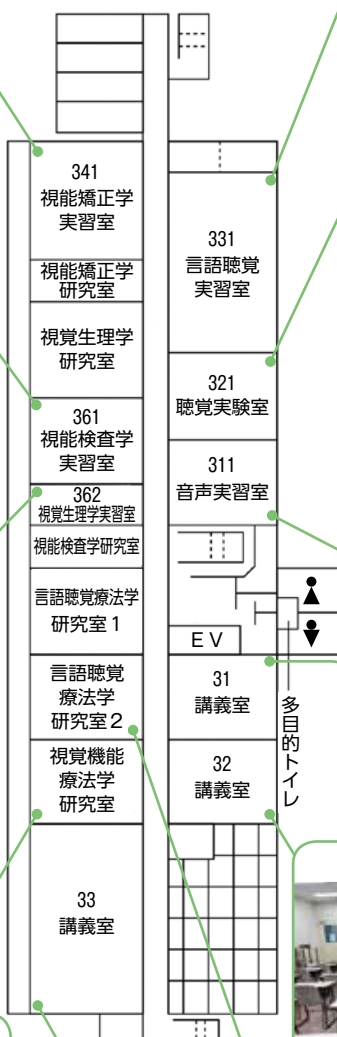
音声実習室

発声時呼吸気流量・声の大きさ・発声効率などをみる音声機能検査、超音波検査、音響分析のためのMDVPなどの各種装置を用いて音声や話し言葉の特徴を評価・分析する実習を行います。



視覚機能療法学研究室

卒業研究にて、データ解析や論文作成に使用します。最新の統計解析ソフトを導入し、文献検索が行えるようにネット環境を整備しました。世界を変える研究を目指しています。



32 講義室



31 講義室



33 講義室



言語聴覚療法学研究室 2

東川先生と原先生の居室があり、これでST専攻の教員が全員同じ校舎に集まりました。また、ピンク色の絨毯が敷かれたプレイルームや観察室も備え、学生が小児の臨床を見学できます。



A2 5 Floor

理学療法学多目的実習室



これまで、運動療法に必要な様々な機器や物品が各実習室に分散していましたが、今回のリニューアルを機に、理学療法学多目的実習室に集約いたしました。スポーツジムとも肩を並べられるような実習用の設備となりました。従来の講義・実習に加えて、運動療法全般を実践的に学ぶことができる施設です。

作業療法学多目的実習室

ADLシミュレータ：日常生活で行う動作は環境の影響を大きく受けます。このシミュレータは手すりの位置だけでなく、お風呂の浴槽の高さ、トイレの座面の高さを任意に変化させることができます。



三次元動作解析装置：人の動作を三次元で分析するために、カメラが9台配置されています。歩行の動作だけでなく、立ち上がりや肩や腕の動作の解析も可能です。



義肢装具室

義手、義足、車椅子や天井走行リフター等を実際に装着・操作しながら学ぶ実習室です。住宅改修のための図面を書いたり、バリアフリーの環境について検討する演習も実施しています。



A2 4 Floor

基礎作業療法学実習室

作業療法で用いる各作業活動を学ぶ実習室です。この実習室では陶芸、革細工、木工、金工等の作業種目を実際に作製しながら学びます。この実習室の準備室には陶芸用の窯も設置されています。



OT治療実習室

お子さんのための作業療法を演習を通して学ぶ実習室です。天井からは各種の遊具、床にはフローマットが敷いてあり、感覚統合やスヌーズレン等の人の感覚と運動を結びつける各種療法を学びます。



視覚機能療法学実習室

高性能の調光器が備わっています。暗幕にて二部屋に分けることができ、視能矯正・視能訓練を修得する実習と、眼科手術の術前・術後検査に関する実習に使用します。



視覚情報科学研究室

指導教員のもと、眼科検査や神経眼科、斜視・弱視、両眼視矯正、屈折矯正などに関するテーマで、大学院生が大学病院や他大学、企業と協力して独創的な研究を行っています。



新任教員紹介

医療検査学科臨床生理学

教授 横場 正典



大阪府東大阪市出身。1993年北里大学医学部卒業。北里大学大学院にて博士号取得の後University of Calgaryに留学。帰国後、北里大学医学部呼吸器内科学講師を経て2009年より医療衛生学部に着任。趣味はバイク。最近ではTactical Medicineに興味あり。

臨床生理学研究室

教授就任のご挨拶

令和3年4月1日付で医療検査学科臨床生理学教授を拝命いたしました。私は北里大学医学部に18期生として入学し、卒業後は大学院にて博士課程を経て、カナダのUniversity of CalgaryにResearch fellowとして留学しました。大学院、留学時代を通して主に呼吸筋の筋活動を筋電図生理学的方法を用いて評価し、呼吸筋の動きやメカニクスを研究してきました。一方、最近では肺癌手術療法における肺葉切除と呼吸機能の損失および回復に関する臨床研究も同時に行っていました。

本学の医療検査学科の卒業生は全国の様々な医療機関や教育現場の第一線で活躍されています。チーム医療発祥の地であり、母校である北里大学で教授として迎えていただきましたことをありがたく感じており、本学における教育と研究のさらなる発展のためにも、この職務に全力を以て努めたいと思います。今後ともご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願いたします。

リハビリテーション学科作業療法学専攻 臨床作業療法学 准教授 天野 暁



出身：広島県（出生は東京都）
略歴：広島大学卒業、広島大学大学院修士課程終了（保健学）、兵庫医科大学大学院博士課程終了（医学）、広島大学病院、兵庫医科大学病院、新潟医療福祉大学（講師）を経て着任。
趣味：映画鑑賞、音楽、読書、料理、子どもとの時間、絵、ゲーム、水泳

作業療法学専攻

准教授着任のご挨拶

2021年4月1日より、医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻の准教授に就任いたしました。

広島大学にて学士取得後は、大学病院という臨床現場に約11年間身を置いていました。その間、修士号と博士号を取得する機会にも恵まれ、教育や研究に対する気持ちが強くなり大学教員としての勤務を開始しました。私はこれまで、脳卒中後に影響を受けた上肢機能に関連する評価ツールを、いかに臨床試験や臨床現場に繋げられるかに関心を置いて研究や教育を行ってきました。この試みは作業療法法の在り方を多くの医療者と共有するために重要なステップだと認識しています。

医学・医療は日々進歩し、それらを取り巻く環境も変化し続けております。そのため、目の前の対象者を知ることだけに満足せず、社会の変化や科学の進歩にも関心を持った上で医療の一端を担う、そのような意識を持つ学生の育成にも貢献していきたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。

医療検査学科病理学

講師 松本 俊英



出身：神奈川県横浜市。略歴：北里大学理学部卒業、同大学大学院医療系研究科博士課程修了、ジェイファーマ株式会社研究開発部、北里大学医学部病理学助教、講師を経て現職。
趣味：ソフトボール、フットサル、テニス。

病理学教室の

講師着任のご挨拶

この度、2021年4月1日付で医療検査学科病理学の講師として着任いたしました。

私は学位取得後、創業企業に勤めましたが、その派遣先が偶然にも北里大学医学部でした。その後、病理学教室の助教として入職しまして、学生時代を含め人生の半分以上を北里大学で過ごしていることになりました。さらに言いますと、私の妻、姉夫婦も本学を卒業しており、一家総出で北里愛に満ち溢れております。

私の専門分野は「分子病理学」でして、病理形態学、分子生物学、さらに次世代シーケンズ法やプロテオミクス法などの網羅的解析法を取り入れた研究を行っております。近年、病院の病理診断業務ではコンパニオン診断薬の開発に伴い、さらにはがん遺伝子パネル検査の導入も加わり、臨床検査技師はますます高いレベルの技術や知識が求められるようになってきました。そのため、学生には基礎医学だけでなく、臨床医学の最新の知見や技術を学ぶことが出来るような教育をして参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

リハビリテーション学科理学療法専攻 スポーツ・
運動器理学療法 講師 河端 将司



石川県出身。1983年生。2006年北里大学医療衛生学部卒。鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士・博士過程修了(2011年)。2017年専門理学療法士(運動器)取得。前職は相模原協同病院リハ室主任。2女(1歳、3歳)の父。趣味は旅行、野球(観戦と選手の指導や治療。自身は野球肩とイップスにて再起不能。)

理学療法専攻

講師着任のご挨拶

2021年4月1日よりリハビリテーション学科理学療法専攻の講師として着任いたしました。

私は、北里大学同専攻の9期生として卒業後、鹿屋体育大学大学院にて修士号・博士号を取得しました。2008年より相模原協同病院にて理学療法士として従事し、スポーツ・運動器疾患を中心に老若男女・プロ選手に対する機能回復や競技復帰の支援に力を注いできました。また近年のトピックである運動器工コーを活用した新しい理学療法のスタイルを確立すべく、第一線で活躍する医師とともに目下研究を進めております。

振り返れば、自身19手前で上京した田舎学生が、夢と希望に満ちてこの学び舎に通ってから早19年、今度は私が学生を迎え入れる立場となりました。かつての街路樹メインストリートは姿を消しましたが、随所に残る面影を見ては感慨深く「19の初心」が蘇ります。これまでご指導いただいた恩師と先人に感謝し、初心を忘れず教育・研究に尽力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

リハビリテーション学科理学療法専攻 助教 安藤 雅峻



出身：愛知県北名古屋
略歴：北里大学医療衛生学部卒業。校美林大学大学院老年学研究科老年学専攻修士前期課程修了、修士(老年学)。汐田総合病院、弘前大学大学院医学研究科助手を経て現職。
趣味：サッカー、アウトドア(登山、トレイルランニング、スノーボード)、写真。

理学療法専攻

助教着任のご挨拶

令和3年4月1日より理学療法専攻の助教として着任いたしました。

私は北里大学同専攻の16期生として卒業後、横浜市にある汐田総合病院にて、回復期病棟、地域包括ケア病棟を中心に、各病期の理学療法を経験しました。その後、前職にあたる弘前大学(青森県)において、文部科学省に採択された弘前大学 Center of Innovation (COI) 事業のもと、職域から高齢者領域に至るまで、地域住民の健康増進へ向けた研究および教育に従事して参りました。研究面では、主に高齢者における生活機能および運動能力の維持・向上をテーマとして、老年学的研究に取り組んでおります。

この度、母校への着任という大変光栄な機会をいただき、ご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今後はこれまでの経験を活かし、また精進を重ねながら、教育・臨床・研究に精一杯取り組む所存です。学生の皆さんには、是非お気軽に声を掛けていただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医療工学科臨床工学専攻 助教 海老根 智代



千葉県出身。北里大学医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻卒業、北里大学大学院医療研究科医科学専攻修士課程修了(医科学)、北里大学病院ME部にて勤務、北里大学医療衛生学部兼任教員を経て現職。趣味は音楽、読書。

医療安全工学研究室

助教着任のご挨拶

2021年4月より臨床工学専攻医療安全工学研究室の助教として着任いたしました。

2013年に北里大学病院ME部へ入職して8年間、臨床工学技士として臨床現場での実務に従事してまいりました。ME業務ジョブローテーションを経て、人工心肺業務、循環器領域業務(IVR、EPS、CIEDS、VAD)を担当、同時に医療衛生学部兼任教員として実習等の教育にも携わりながら、専門スキルの習得と実践へ取り組みでまいりました。

この度は大学教員として母校へ戻ることであり、私自身これからの日々を大変楽しみに思っております。今まで、臨床現場にいるMEとして私がやるべきことは何か?ということを考えて、ひたすら業務にあたってきました。今後は、学問・研究へと視野も広げ、更なるステップアップに努めたいと考えております。先生方のご指導の下、学生の皆さんとは一緒になって学びながら、試行錯誤の日々を過ごしたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

健康科学科は

保健衛生学科としてリニューアルしました

本学科は2021年4月に学科名称を変更し、コースの統合を行いましたので、紹介します。

保健衛生学科 准教授 深瀬 裕子

保健衛生学科に名称変更

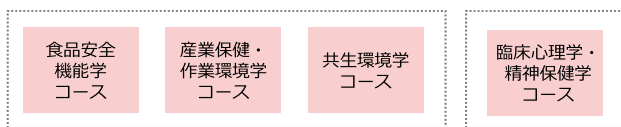
「健康科学科」という名称は2006年の改組で生まれました。以来、皆さまに親しまれてきました。何を学ぶ学科なのか分りにくいという声もありました。そこで、予防医学を学ぶ学科であることが分かりやすいように、保健衛生学科に名称を変更しました。

英語表記は変わらずHealth Scienceです。で、新しい学科名が思い出せないときには、今までどおり「えい・ちえす」とお呼びください。新しい名称になっても、変わらぬご厚誼のほど。



保健衛生学科の教員一覧 (2021年4月現在) 50音順

健康科学科の4コース



保健衛生学科の2コース

環境保健学コース	臨床心理学コース
担当研究室・教員 (2021年4月現在)	
公衆衛生学研究室 内藤由紀子 教授・伊与 亨 講師 飯塚佳子 講師・片桐裕史 助教 環境衛生学研究室 清 和成 教授・古川隼士 講師 AMARASIRI MOHAN 講師 衛生管理学・産業保健学研究室 大場謙一 講師	精神保健学研究室 田ヶ谷浩邦 教授・深瀬裕子 准教授 市倉加奈子 講師 心理学研究室 村瀬華子 教授

全員が受験せずに取得できる資格

第一種衛生管理者 (国家資格)・環境衛生監視員 (任用資格)

全員が受験資格を得られる資格

甲種危険物取扱者 (国家資格、在学中から受験可能)

取得できる・めざせる資格

食品衛生管理者 (任用資格)	公認心理師 (国家資格。指定科目履修後、大学院進学あるいは実務経験をjけることで受験可能)
食品衛生監視員 (任用資格)	産業カウンセラー (協会実施の講習会受講で受験可能)
健康食品管理士 (所定の単位を修得することで受験可能)	臨床心理士 (指定大学院を修了することで受験可能)

進路

民間企業への就職や公務員 大学院への進学 心理系大学院への進学

ごお願い申し上げます。

2コース制になりました

自由に科目を選択でき、今まで以上に専門的に学べるように、これまでの4コースを環境保健学コースと臨床心理学コースの2コースに統合しました。2コース制は2021年新入生からの適用となります。

●環境保健学コース

食品の機能性や安全性、水を中心とした環境汚染の防止、衛生的な労働環境などについて学

●臨床心理学コース

全国的にも珍しい医療系大学で臨床心理学を学べるコースで、基礎医学部門による講義や病院実習がウリです。公認心理師を目指して大学院に進学する学生だけでなく、学部卒業後に民間企業に就職する学生も多く、本コースでの学びは社会でも活用できます。

編集後記

皆様のご協力のもとAHS28号が完成しました。本号は消えゆく旧A1号館とA2号館のリニューアル工事が終了した報告、続けてリニューアルされたA2号館の案内へと続きます。私は主にA2号館で過ごしておりますが、これだけ大きなスペースに素晴らしい実習機器が設置されているのを知りませんでした。スペースも機器も皆様と協力して大切にしたいものです。

桜の季節も終わり、新緑が美しい季節を迎えました。世間は未だにCOVIDの蔓延から逃れることができません。新入生も入学し、本年度は多くの講義が対面となり、部活動も始まっているようです。ワクワクに期待し、皆様もう一息、感染拡大予防を頑張りましょう。

(石川均)

編集委員会

委員 石川 均

深瀬 裕子
黒崎 祥史
太田 悦朗
清水 忍
藤村 美佐子
川島 麗
阿部 祥子
野崎 佳子
井上 佳子